

# いま甦る、貞山堀の護岸石積み！

平成 28 年 10 月 29 日（土）仙台市教育委員会

〔遺跡名〕 貞山堀（ていざんぼり）	〔所在地〕 仙台市宮城野区蒲生地内
〔調査原因〕 蒲生北部土地区画整理事業に伴う調査	〔調査期間〕 平成 28 年 6 月 27 日～11 月 30 日（予定）
〔調査主体〕 仙台市教育委員会	〔調査担当〕 仙台市教育委員会文化財課・(株)吉田建設

## （1）「貞山堀」の歴史

貞山堀は 17 世紀初めに伊達政宗により開削された名取川と阿武隈川をつなぐ「**木曳堀**」と、明治時代に名取川と七北田川をつないだ「**新堀**」、そして今回、発掘調査を行った、**塩釜湾と北蒲生をつなぐ「舟入堀」**の三つの運河の総称です。

舟入堀の開削は寛文～延宝年間（1660～1680）とされ、同時に北蒲生地区には「**蒲生御蔵**」が置かれ、鶴巻一苦竹間には「**舟曳堀**」が開削されました。

明治 20 年代には舟入堀と七北田川が繋がれ、南の木曳堀や新堀と共に**拡幅や浚渫工事**が行われました。しかし舟入堀は昭和 42 年から開始された仙台港の建設工事に伴い、堀の北側が失われ、昭和 50 年代には残る堀も埋められて公園となりました。



北蒲生地区の貞山堀（舟入堀） 昭和 27 年米軍撮影

## （2）これまでわかっていること

平成 27 年度に行った貞山堀の「**舟溜り跡**」と蒲生御蔵跡の確認調査では、舟溜り跡の南岸で高さ約 1.5m の石積みによる**護岸施設**を確認しました。

また御蔵跡では、大きなゴミ穴から 100 点を超える木の板に墨書した「**木簡**」が出土しました。木簡の一部を解読したところ、人名や重さや容量の単位、他、「志田郡」や「遠田郡」といった東北の郡名や村名らしきものが書かれていました。

このことから、木簡は北上川や鳴瀬川等の舟運によりこの地に運ばれてきた米などの物資に付けられていた荷札や木札であり、年代は不明ですが、かつての物資の流通や蒲生地区が果たしてきた役割を知る上で貴重な資料となりました。



蒲生御蔵跡から出土した木簡

## （3）見つかった石積みについて

調査は区画整理に伴って設置される埋設管や、都市計画道路の部分を対象として実施しました。調査した場所は、舟溜りへの入り口に造られた南北 2 か所の護岸石積みと、堀の土手部分の 9 か所です。

ここでは護岸石積みについて説明します。



舟溜り跡と蒲生御蔵跡 (左の写真を拡大)

### ①舟溜り跡南岸の石積み（1区）

貞山堀から舟溜り跡の南岸にかけて造られた**石積み**を、約 15m の長さで確認しました。石積みの上と下では積み方や構造が異なっており、造られた時期に違いがあります。

#### 【改修された石積み】

最も上に積まれた石は失われていますが、残りが良い部分での石組みの高さは 1.7m あり、傾斜は約 60°～70°とやや急です。積み方をみると、一部に「**落し積**」の手法がみられます。使用した石は安山岩質とみられる固い石材を使用しており、全体にやや小振り、石を割った面を正面に向け、周りはゲンノウで粗く打ち欠く加工がみられます。石組み全体の裏側には、積む石を加工した際に出た**端材**が**裏込石**として入れられています。

#### 【古い石積み】

下の石積みは、長方形や台形に成形した凝灰岩質の切石を積んだ**精緻**なもので、最も下の根石から 3 段から 1 段のみが残っています。積んだ石の幅はまちまちですが、1 段ごとに高さを揃えた「**布積**」です。傾斜は 40°～50°と上の石積みと比較してかなり緩いものです。根石の下には沈下防止のために、凝灰岩を砕いた石が敷かれています。

石積み全体の形状を見ると、西に入り込む舟溜りに向かって急に曲がっていますが、数か所に角を付けながら曲がっている可能性があります。また古い石積みの南端は、改修された上の石積みが途中で土手側へ曲がり終るのに対し、さらに南へ延びています。

#### 【石積みの年代】

以上の特徴から、丁寧に加工された石材による布積の古い石積みについては**近世に造られた可能性がある**のに対し、改修された新しい石積みは、幕末以降にみられる特徴とされる落し積であり、**近代以降に何らかの理由により、根石近くを残し積み直されたもの**と考えられます。また改修後の石積みは、さらに上半部と下半部では積み方に若干の違いが認められることから、**舟溜り南岸の石積みは、現代にいたるまでの間に何度か補修された**とみられます。

### ②舟溜り跡北岸の石積み（2区）

#### 【石積みの特徴】

最も残りの良い場所での高さは 2.4m あります。石積みの傾斜は 30°～40°で、南岸の改修後の石積みと比較しても緩やかです。積石は割面を正面に向ける特徴は南岸石積みと同じですが、**控え**の短い石材を使用し、積むというよりは、「敷く」といった感じを受けます。また根石の下には角材を横に渡し、太い丸太杭で石積み**が崩れない**ように固定しているのが特徴です。現時点で石組みの裏側の様子は不明です。

#### 【石積みの年代】

積み方が南岸よりも顕著な落し積であることから、**造られた年代は近代以降**と考えられ、さらに上下での積み方にも差が認められることから、南岸石積み同様に、現代にいたるまでの間に何度か補修されたとみられます。